

今回は第一外科が出題

少なかった出席者

実らない主催者の苦心

第四十一回千葉医学会総会と第十回千葉県医師会學術大会の連合大会は、昨年と同様連合大会として十一月十四日、本学医学部記念講堂で開かれた。

重点は主要な癌に

第二回日本癌治療学会開かる

第二回日本精治療学会総会は十一月十九、二十、二十一日の三日間医学部記念講堂と五会場、映画会場、展示会場にわかれて開かれた。

総会は、十九日午前九時、記念講堂で三輪清三会長（本学教授）の開会の辞に始まった。記念講堂ではまる一日、総会における各科の主要テーマについての特別講演が行なわれた。翌二十日は会場を五つにわけ、各分科会を開いた。が、特に第一会場（教育会館）では化学療法の問題がとりあげられた。最終日、二十一日は午前中化学療法法のシンポジウムが記念講堂で開かれ、総会をおえた。

今回の特徴としては、各科でまっく

論 説

健保制度の統合化を

嶋田美夫

嶋田美夫

[illegible]

とも重要な癌をとりあげ、その道の専門家に特に癌治療について特別講演を行なったことであり、胃癌、肺癌、子宮癌、上顎癌などの治療が討論された。また川喜田木学教授による「癌とウイルス」の講演も行なわれた。 一般演題も、そういう訳で、各科の主要な癌のテーマにそったものが発表された。演題数は約二百で、胃癌、乳癌、肺癌、肝癌、泌尿器科、婦人科、胸部外科、整形外科、皮膚科、小児科、耳鼻科、放射線科などにおける治療が討論されたわけである。	最終日の化学療法法のシンポジウムでは、特に抗癌剤の問題がとりあげられ、現段階における抗癌剤の使用法が討論されたことも注目される。 今回の参加者は、約二百名の教授を含めて、約千四百名にものぼる盛大な総会となった。なお医学部本館講堂では十九日、二十一日の両日、シネクリニクが行なわれ、癌の手術や治療の映画が十本上映された。
---	---

第三回総会は来年仙台で開かれる予定である。

助教授に荒木氏
(農山村施設医)

石田(精神)衣川(衛生)両助教も決定

昭和四十年一月一日付で、付屬農山村医学研究施設の助教授に長野県立阿南病院院長 荒木武雄氏採用が決定。また神経精神科助教授に石田武氏の採用および衛生学助教授に衣川瑞水講師の昇任も同時に発令された。

石田武助教授の略歴
昭和二十一年千葉医科大学卒。二十五年神経精神科助手。二十八年講師。「神経梅毒のペニシリン療法」、「代行為について」などの業績がある。

荒木武雄助教授の略歴

外科入局。十八年同講師。二十二年「自律神経機能と胸腔内操作時の反射性障害」に関する臨床的研究」などで学位修得。同年長野県立阿南病院院長に補す。農山村医学に ついての業績がある。



衣川助教授

石田助教授

千葉大学
ねのはな
同窓会報

編集 千葉大学医学部
 ののはな同窓会
 報 学生編集部
 発行者 伊藤 忠雄
 千葉市中央区 318番地

新和
刊洋

醫學書
看護學書
助産婦學書
專門販売

メジカル書院

病院・御用達

千葉市亥鼻町二八(病院坂)
千葉大学医学部西門第
電話千葉(2)七九四三

人事異動

橘 正道 生化学講師。京都大

山崎氏が新事務長に

藤忠雄事務長の付属病院事務部への昇任に伴ない、十二月一日で新しく山崎寛一氏が留学生事務長から配置換えとなった。

どぞうろっふ

年度からは政治経済学部と文芸学部の募集を停止する方針が決定された▼学校当局は、勤労学生が最大減りつつあり、試験による第二部（昼間部）への転入も可能な

老化にパロチンで対抗しよう

★目の老化に老眼鏡★歯の老化に入れ歯や消化剤
★骨、関節の老化にステッキ★筋肉の老化にマッサージ
★血管の老化に降圧剤などなど……

老化対策がまちまちで、しかも老化は止むを得ないと
認めんばかりの心細い手の打ち方です。

8つの重要組織を同時に、バランスを保ちながら、若
いときのあの体力をつける薬…パロチンを補給しまし
ょう。青年時代、あなたの体の中で分泌していたパロ
チンを外から与える積極的な対策が必要です。

帝国臓器 東京・赤坂局区内

老化を防ぐ

パロチン錠

120錠

伊志井 寛さん

大学院医学研究科

研究発表会開く

本年度の大学院医学研究科の研究発表会が、十月二十六日から二十七日まで毎週月曜日に五回にわたって、新館第一講義室で行なわれた。これは大学院四年生の学位論文の事前発表会で、各自の研究に他の研究者の意見を求めようという趣意をもち、昭和三十六年から行なわれている。例年聴講者が少なく、その低関心を何らかの方法で挽回すべく言われているにもかかわらず、本年は一層の低関心を示し、主催者ならびに大学院生を非常に失望させている。このような事態に對して、発表会主催者として小林教授（薬理学）は次のように語っている。「多様な研究内容のレベルは、すでに外国雑誌に掲載されたようなものもあり、十分に高度のものであるにもかかわらず、他の研究者たちの関心が薄く、聴講者の少ないのは残念である。大学院の研究発表の唯一の機会であることも理解して、次回からは、多くの人の聴講と意見を募きたい。」以下は今回の発表テーマ、発表者とその所属である。

望まれる一般研究家の関心

- 『人体筋力と運動に関する精神神経学的考察』堀田（二内）道場信孝（二内）
- 『心臓血管内の緊張性相性変化にみられる求心性迷走神経反射について』鈴木茂（二内）
- 『水コリウムと迷走神経の迷走神経反射』海保允（二内）
- 『迷走神経反射の迷走神経の周期性反射について』明石 泰雄（一生涯）
- 『神経板の分化に関する実験生化学的研究』嶋田裕（二内）
- 『猫皮膚運動及びその周囲から起る投射線維群について』堀江武（神経）
- 『脳性麻痺の重症決定要因と管理』
- 『運動麻痺のNervous Systemについて』堀田（二内）
- 『多相性脈波分析によるBaltic cardio graphの診断的価値』藤田夫（神経）
- 『海馬後部からみた同精神作用薬の作用機序』真永嘉久（二内）
- 『蛋白質合成に関する臨床的並びに実験的研究』鎌谷静子（二内）
- 『パンチ症候群の臨床病理学的研究』（一内）
- 『慢性閉塞性肺気腫の重症度決定とそれにもつた肺血力学的研究』長谷川雄（二内）
- 『Bergmanの診断的限界と位置要素の人体分布の定量的測定』左室負荷曲線と呼吸器候群に
- 『多相性脈波分析によるBaltic cardio graphの診断的価値』藤田夫（神経）
- 『海馬後部からみた同精神作用薬の作用機序』真永嘉久（二内）
- 『蛋白質合成に関する臨床的並びに実験的研究』鎌谷静子（二内）
- 『パンチ症候群の臨床病理学的研究』（一内）
- 『慢性閉塞性肺気腫の重症度決定とそれにもつた肺血力学的研究』長谷川雄（二内）
- 『Bergmanの診断的限界と位置要素の人体分布の定量的測定』左室負荷曲線と呼吸器候群に

生化学教室の巻

生化学として新たな出発

要求される創意と努力

医学部西門を入り、右曲りの坂道を登り切った所を交する基礎連絡道を右折し、突き当たった左手一階より二階を占めるのが生化学教室である。生化学教室としての歴史は、まだ一年にも満たないが、生化学教室としての歴史の始まりを一九二二年（大正元）に求める事が出来る。即ち、当教室は生化学教室としてその若きあふれるエネルギーを、そして生化学教室としての伝統ある歴史と教養を、あわせてもっていると言える。生化学教室としての歴史は、千葉大学医学部八十五年史によると、先に述べたように初代相模留吉教授が一九二二年九月に化学講義を担当した事に始まる。次いで、末吉雄治教授（一九二七・一九二九）、赤松茂教授（一九二九・一九三〇）は、四年の間に新築された基本方針を示されるが、あとはボツと盛んで、お天気のよう

(写真は三浦教授)



学会相次いで開催

- 小児科学会 千葉地方会
日本小児科学会千葉地方会、十一月十二日正午から記念講義で開かれた。出席者は百数十名を数えた。本学の中山喜弘講師、中島春美講師が今年インドネシアで開かれたアジア・アフリカ小児科学会に出席し、特に中山講師は後述の乳児栄養について代表講演を行なったが、それについての特別講演が両講師から行なわれた。次いで三浦教授が発表されたが、中山、中島両講師は小児アレルギー疾患について述べた。
- 頭頸部腫瘍学会
第八回頭頸部腫瘍学会は十一月二十日、本学病院で耳鼻咽喉科主催の下に開かれた。午前中は病院内で頭頸部腫瘍の手術実演が行なわれた。近年可能となった病変部の切除手術は、手術法により、発症機構などは障害を受けずに済んだが、これらも再発などを中心に討議された。午後には会場を自治会館に移し、①頭頸部の腫瘍②悪性腫瘍の化学療法③頭頸部の腫瘍の放射線療法④頭頸部の腫瘍の外科療法⑤頭頸部の腫瘍の病理学⑥頭頸部の腫瘍の免疫学⑦頭頸部の腫瘍の分子生物学⑧頭頸部の腫瘍の遺伝学⑨頭頸部の腫瘍の疫学⑩頭頸部の腫瘍の予防学⑪頭頸部の腫瘍の診断学⑫頭頸部の腫瘍の治療学⑬頭頸部の腫瘍の基礎研究⑭頭頸部の腫瘍の臨床研究⑮頭頸部の腫瘍の基礎と臨床⑯頭頸部の腫瘍の基礎と臨床⑰頭頸部の腫瘍の基礎と臨床⑱頭頸部の腫瘍の基礎と臨床⑲頭頸部の腫瘍の基礎と臨床⑳頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㉑頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㉒頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㉓頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㉔頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㉕頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㉖頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㉗頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㉘頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㉙頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㉚頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㉛頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㉜頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㉝頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㉞頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㉟頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㊱頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㊲頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㊳頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㊴頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㊵頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㊶頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㊷頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㊸頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㊹頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㊺頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㊻頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㊼頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㊽頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㊾頭頸部の腫瘍の基礎と臨床㊿頭頸部の腫瘍の基礎と臨床

あたらしい生化学

八木国夫 三浦義彰 阿南功一 大野公吉

この本は大学の医学部の学生あるいはそれに準ずる読者を対象として、新しい生化学の進歩を教えることを目標として編纂された。従来生化学講座の持時間のかなりの部分を占めていた有機化学的記述を出来るだけ短縮して、代謝の項目を多くし、また同時に医学一般の理解の基礎を深めるために生理化学、病態生化学の記述にも多く意を用いた。従来の生化学の教科書とは異なる新しい角度から執筆・編集が試みられ「新しい生化学」の名にふさわしい教科書となつている。

●B5 頁318 図281 写真1 ￥2000 千160

放射線医学 基礎編 放射線医学研究所 江藤秀雄 ●A5 頁162 図181 ￥1200 千100
眼 科 学 第4版 東北大学教授 桐沢長徳 ●A5 頁192 図51 ￥1000 千100

耐性

ブドウ球菌感染症に

内服用・注射用・新合成ペニシリン

スタファシリン-V

STAPHICILLIN-V (メチルフェニルイソキナゾリルペニシリンナトリウム)

◆内服用(錠剤・カプセル)・筋注用

萬有製薬株式会社 東京都中央区日本橋本町2-7

学内の沈滞ムードをさぐる

荒される構内
籠り通る騒音

「大学というところは活気のある静けさか研究出来る静けさかというものがあっていいのではないだろうか。何かしら騒しく、落着かない雰囲気、ともかくアカデミックな面が少ないうちではないだろうか。」とある助教授の言葉である。なる程大学というところを感じさせない面が多い。

本学には玄関もない。門もない。それは大学としてのシンボルがな

低調が恒例となつてしまつたのは残念。学生自治活動の不振。欠席者の多いことなど学生の無気力な状態。その他、ボリクリ、実習の不備、又休講の多いことなど、来年九十周年をむかふ千葉大学医学部の全体がもう一度考えて見る必要があるのではないだろうか。そしてそれらを考える、まず現在のなにか沈滞したムードという問題の原因を考へねばならぬ。そこでまず本学ではその原因を究明しようといふこととテーマの追求に手をつけたわけである。多くの教授、助教授、講師、助手、医局員、大学院

シンボルをつくれ

その要諦

ルーズな管理と運営

セクトが生みだす非能率

偶然と日々を送ることに不快感を感じなくなつたんです」といふ学生もいる。何かしら学校らしさが欠けている。普通の人間が大学に自由に出入り出来るという問題がある。大学病院というものがあつたら、仕方ない面もあるが、構内をスポーツカーがとほして行くと、裏門から正門へと相当なスピードで車が流れている。大学内の管理

無気力といいかげん

欠けるコミュニケーション

全体が現状打破の姿勢を

生、学生などからさういふ意見が聞かれ、それをもとに、我々編集部員で一応の筋を通して考えて見た。学生初め多くの人々の中には無理して考えてもむだ。今運動してもしかたがない。結局は政治が金がないせいだといふ結論で納得してしまつてゐる。所がある一方、この沈滞をなんとかしなければ、と真面目に考へている人も多くあることに驚く。これらの火を消してはならない。いままさ学部全体が学園作りといふことに目を向け一大飛躍への足かりを確立する必要がある。

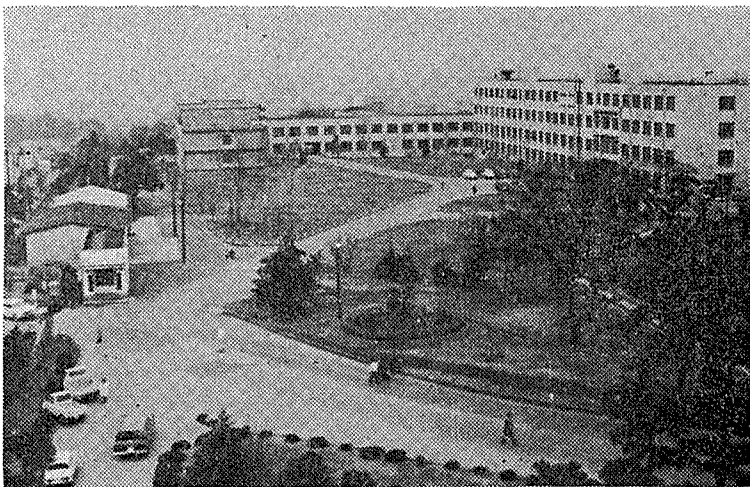
学位の取得機関か

大学院の問題

根本に研究する心構えを

臨床医の育成が恵まれぬ環境
現在の大学院は一言にいへば、学位取得機関となつてゐる。多くの大学院生は現状に不満を持ちながらも、四年間で確実に学位をもらふといふことに支えられて生活を送つてゐる。医局に入る研究生との差異を調べても、購買力があるが又教室がある。暇でもなく、ただ四年間で仕事を終へるというだけのことである。

研究生の場合最低六年かかる学位取得が四年でなされる点に月謝を払つてゐる。この点について大学院生の考へが、一番強い。いふまでもなく、期間が短かくてよい、又将来公的機関に就職する時の給料がいかに有利か、最大の魅力は短期間で学位がとれることにある。それが発展すれば、大学に残つても助手の道



さいで回され、そこで又長時間待たねばならぬといふのである。それも暖房の完備していない、暗い廊下。

床検査室、病理組織研究室などは無駄に時間を費やしてしまつてゐる。日本には日本の経済的実情がある。しかし共同化し中央化するこゝにより、仕事も能率よく、設備の充実も期待出来るのである。教室だけのセクト主義を打破するだけの勇氣と実行力を本学の発展のために持つて欲しい。学校を愛する氣持の欠如だといふ人も、率直な話し合いを通してアカデミックな雰囲気、大学全体がおおわれるように各方面の反省が望まれている。

写真説明

「これでいいか、いかにも活気のない本学構内。灰色のムードの中に沈みきつていないか。」

ある。実際の患者は本にはない。大学院ともなれば、教わるのではなく、実験、患者を通して自分で発見していくもので、確信性の少ない講義を聞くより、本を眺めればよい。フットを燃やすという点でまた気休めという点で講義をうけている教授もいるのである。

現在の大学院は「臨床医」を育成してゐる。ある意味では利用されているのである。研究者でもなく、教育者でもない。そして各教授によって大学院の考え方が異なる。結局四年間で卒業はするけれど、そこにはきつしたものがなく、はきりきつした努力もない、考へもない。そんなことが沈滞と沈滞したという焦燥感を学内にたたへてゐるのではないだろうか。

開業であつたと当時の大学院生は、又中央検査室もないために、個人が何故現在の個人に無駄に使われ、その上に有名無実なスクーリングに上り学費を金で買はれるのにも限られたのであろうか。ある基礎の先生は、いふ。系統的な講義をしよと予定していると申請した人数の増減がつかない。その上毎回メンバーが変わるのでは、どうも系統講義は出来ないといふのである。大学院生にしてみれば、毎日忙し、臨床において、生命きた人間を対象にして、生命、健康、教育がマヒする。必要な制度改善への意欲。善への意欲。一方単位制に疑問を抱く教授連も

下痢！
便秘！

【適応症】
腸内異常発酵による急性・慢性カタル・下痢、便秘、鼓腸、緑便、細菌性下痢、感冒性下痢、小乳幼児の発育促進、小児ストロフルス、麻疹、湿疹、栄養障害、消化不良、抗生物質療法化学療法後の整腸

活性ビフィズス菌製剤

ビフィーナ

化学療法後の整腸

日研化学株式会社

本社：東京都中央区銀座4-5
支店：東京都中央区銀座3-10
支店：東京都中央区銀座3-10
支店：東京都中央区銀座3-10

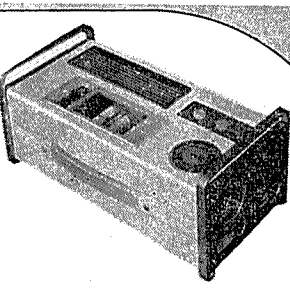
フクダ
心電計

フクダ医療電機

株式会社 東京都台東区

池ノ端七軒町七番地

TEL (828) 2121~4



トランジスター心電計

DR-1T

WEIGHT 6.5 kg

理性的な計画
性ある運動を

今度自治会は代表議員の選出にあたり、小選挙区制を採用した。クラスを十名の単位に分けて、その十名の中から互選で一人の代表議員を選出するという方法である。これは自治会が計画的な方向に先導するに資するものである。代表議員が今迄よりクラスの意見を代表しているように思われるのである。しかしまた問題がある。十二月十四日に開かれた代表議員会の出席は半数を少し越えたに過ぎず、又その時出された議題は前もって代表議員に知らされた訳でないから、代表議員は選挙区の人々の意見というより、ただ、自分の意見として述べることになった訳である。学生とつながりのない自治会というものは一時的に華やかであって何が残さないのでないか。学生の動きを代表してこそ組織化されている自治会が力を持てることである。勿論現在の沈滞は学生個々の自覚に反省を求めねばならぬであろう。

学生の内心反省と

学生の問題

アフレントインパルス

「きけわたつみの声」のど金賞受賞という華やかであった。その時の喧嘩は千葉本学にも入り込み、昭和二十五年県立医科大学になるかもしれないという、国立大学でなければならぬ、酒席のようにはみえたが、果してこの大学を前進させるためどれ程努力したのだろうか。

カリキュラム委員の活用と期待

この二つの運動の教訓は感情的な動きの中からは何も残らず、もつと理論的に分類し、計画しなければならぬことである。アイディアだけでは改善を推進させることは出来ない。はっきりしたプランをもたねばならぬことを教えている。その意味でも今度設立されたカリキュラム委員は学生内の原動力にもなるであろう。そのためには学生の自覚が必要となる。学生であることに甘えてはいけぬ。内面的学生の充実は一一人の学生が真剣に考えねばならぬ。

学内の実情は凄惨な状況であった。内部的に華やかであったのは昭和二十二年から二十三年である。新制大学の足踏をめぐり胎動期において、大学の統合の問題で真剣に悩んで、学生大会を開けはほとんどない。自分で選んだのだ。他

展望

私たちは、いま四つの面から沈滞ムードの底流を探ってみた。しかし、前にも述べたように、取材の広さ、深さからみて、どの程度メスを入れることができたか疑問である。だが、少なくとも、私たちはアプローチできた範囲からおおむね、次のことはいえるであろう。

学生の自覚と要求

発展性のあるバランスを

即ち、学内は発展性のないバランスで支えられている。そのことが、そのバランスの範囲内においてのみコミュニケーションを通用させているということ、そして、そのことが、無気力を生んでいるといえないだろうか。弾力性のないバランスは、ほんの一部でもつづけば、各方面で大きな波となって反響し、つづいて、どの部分で



ダイナミックな発展の礎としてほしいものである。千葉は地理的にも東京の近郊にありながら、いかにものんびりしたムードに支配されている。無気力な自身をこの土地のムードのせいにし、まじめに、もしオックスフォード大学やケンブリッジ大学がロンドンにあれば、今日のあの伝統は築き上げられなかったであろう。それは、大学の自覚が、あの頃は、あんなに意味のアカデミ

教授、事務関係者と学生との懇談会が十月、川喜田、柳沢、宮内、基礎の教授と、鈴、二十一日午後三時五十分より開かれた。この懇談会、かねて学校側にもその計画があり、一部学生の要求により話が進められ、十一月より自治会内に発足したカリキュラム委員の諮問であった。学生側からは医進からG4までの出席者は、滝沢学部長をはじめとし、福山、

懇談会から

各学年が講義等に要望提出 会はカリキュラム委員の諮問、出欠制、留年制の問題、医進の問題等が話し合われたこととなった。また、本学のカリキュラムが昭和十四年以来不変の近頃休講が多く、二年では今年(四月十一日まで)に五十回もあ

発展への足がかり

カリキュラム問題で学生と教授が交流

はとうとうわけが等から学生の不安を映し出している。希望が述べられていた。G1、G2、G3からは、生徒数と三からの要望は、教科書と前編と設備と指導教官のバランス、教室の間の連絡(各教室が同じことをた

医進課程再検討を望む声も

G4からは、臨床講義の改善の問題が出された。また交換教授制や一つのテーマを各年度の教授が一同に会しての講義・オペラチオン

多く、その時間に名教授にその人の専門の分野を分りよく、また医学全体の概念とまた自分の研究生活とかを講義してもらった方がよいという声もある。あるいは世間で問題になり、新聞紙上を騒がせている医学のトピックス(たとえば出血、血清肝炎)の常識的な解説もなされれば、医学生としての自覚もあがるであろうと考える学生もある。医学部でこなされていることを知らせたり仕事をみせたりして興味を抱かせ、医進の張り合いにさせたという教授もいる。

オリエンテーションに力

それらのことが行なわれることが医学全体をみるとカリキュラムにもあたりオリエンテーションにも通じる道である。そしてそれ等を通して各自が自覚していくものであろう。学部の人から基礎の科目で解題の時間が多すぎるのではなにかという意見もあったが、学部に来てからは解題に追いつかないという解題は知っておかねばならないし、解題練習にしようが大切である。正直な話、学一の前半は言葉に追いつかなくて、予習の準備すら出来なかったという人は多い。解剖学のアウトラインは医進の教育にとりいられも良からう。他の学部では、年の金土曜日の二日間を専門の教育に費やれているのだから、医学部でもその位はやってもらいたいというのである。セクト主義に陥らない位のエリートは医学生もはつきりと認識していかねばならないと考える学生もある。医進の時代には感じなかったが、学部に来てから痛切に感じた人々も多

文芸部読書会から

森鷗外作

雁を読んで

看学2年 森 輝 子

だか私は悲しみのみに心をみ、たし、宿命に服従したくない、憐れみをお玉を閉眼——人生の力、強い一歩を踏み出さざるもの、心算で進む女性達が現代に、とはなれないか、たとしても、哀れみ故に美しく、人の心を打つ。お玉とその父親のような善人は人に利用されやすい、この人、この美しき死をたてたいと思つ。 (註)毎週水曜午後五時より人がいてこそ人生は無味乾燥と読書会やばきの部屋にて。 (文芸部) 末道の妻、お常という女……

東京都文京区龍岡町 振替口座東京6338 / 南山堂

